

おおぎ会 歩こう東海道 57 次

“お江戸日本橋へ”

最終章

平成 27 年 4 月 2 日から 4 日

昨日の雨も去り、曇り空、良き旅日和となるか？ 当初の目的 花（桜）を愛でながら、東海道を歩く・・・優雅・・・完歩は近い！ やがて来る、旅の終焉を祝うかの如く、今年の桜も見事に咲いた。 神様・仏様 明日（今日も）、天気にしておくれ・・・我々は 東に 向かうから！



この企画の誕生には、僕は 立ち会っていないが、以後 継続され、28 回目となる。プロジェクトが、多年に 亘る為、旅人の体力は、限界に近い。早く “お江戸日本橋” にと心は急ぐ！

東海道は 1601（慶長 6）年、徳川幕府が、江戸から京都間に 53 の宿駅を整備させた。京・大阪間には、京街道 即ち 豊臣秀吉が、整備を行った「文禄堤」があり、未だ 豊臣家は、健在故に、遠慮したのか、東海道を大坂迄とは、言えなかった様だ。1615 年、大坂城が落城すると、大坂（高麗橋？）まで延長、途中 伏見・淀・枚方・守口の 4 つの宿駅を設け、東海道 57 次となり、現在に至る。

旅 人	A	細田 庄一
	B	藤井 博伸
	C	木本 信男
	D	中山 博夫
	F	（記録）足立 義明

（1 日目）4 月 2 日（木） 曇り一時晴れ

茅ヶ崎一里塚 → 辻堂一里塚跡 → 藤沢宿(6) → 藤沢橋

距離 6.20km（今日の歩行距離 18144 歩 * 70cm = 12.70km）

AM6:25 枚方を出発、もう慣れた？いつもの道を、ひた走る。大した渋滞にも遭わず 新庄 PA でトイレ休憩、その間に 宿の手配。簡単に決められると思ったが、甘かった！空き部屋がない、15 か所以上のホテルが、全て満室？ やっと決めた宿は、連泊不可だった。（後日大阪でも、ホテルが取れないとの事・・・外国人の為？） だいたい時間のロス、一気に茅ヶ崎へ！ 昼食「松屋の牛丼」 早い・安い に魅力を感じる。食後 駅前に車を預け、一年ぶりの「茅ヶ崎一里塚」！

御発ち 茅ヶ崎一里塚

14:20 一里塚交差点から、R1(国道 1 号 = 旧東海道) 東に、向かって歩き始める。街道には、雨にも負けず、風にも負けず、そして排気ガスに負けずに、聳える松並木 昭和 62 年の茅ヶ崎市教育委員会の調べでは、推定樹齢 400 年、幹回り 2.20m の大きな黒松があり、その情景は、安藤広重の 53 次絵の通り、旅人や地元の人々に、安らぎを与えていた。しかし現在は 少し 小振



りの松並木（写真左）だ。

旅が 長丁場となれば、宿場と宿場の間には、旅人等の為に、休息場として、**立場**が設けられ、その一つの「**牡丹餅立場**」（写真右）がこの辺だったと、案内板に示されている。「**立場**」には、飲食を提供する茶店があり、この茶店は、「**牡丹餅**」が有名だったらしい。今日は、案内板のみで、牡丹餅は無い。（帰ったら、枚方洞ヶ峠の、ぼた餅食べに行こう）



今日、案内板のみで、牡丹餅は無い。（帰ったら、枚方洞ヶ峠の、ぼた餅食べに行こう）

辻堂一里塚跡



R1 広い歩道があり、歩き易い。やがて藤沢市に入る。先方、**交番前**交差点付近に 「**辻堂一里塚跡**」があるとの事だが、不明？GSの叔父さんに尋ねると、すこし 手前の**標柱**（写真）が跡だそう。物足りない。その先に 小さな祠「**四谷不動堂**」があり、左斜め奥には、大きな鳥居。ここは「**大山道**」の起点で、参詣の道標となり、堂内には、旅の安全を祈願する不動尊が祀られている。

街道は、**四谷**交差点を、右に進み **R44(県道 44)**を歩むが、すぐ、**羽鳥**交差点で **R43** となる。道は 少し登り坂、大きな工場（メルシャン）横を、只 前に進むのみ **引地橋**を越え、少し賑やかな町並に到着する。やがて **台町**この辺りより、「**藤沢宿**」となるのだが、「**見附跡**」も見過ごしたらしい。

小田急**藤沢本町**駅先の**白旗**で、道は **R467**となる。左奥に 義経伝説の「**白旗神社**」がある。神社には、井戸で洗われた義経の首を埋葬しているらしい。又 首を洗った**井戸**(空井戸・奥州平泉で打ち取られた、義経の首は、鎌倉に送られ、確認されたのち海に捨てられたが、堺川をさかのぼり、この地に漂着したとの事?) もあり、義経伝説も本格的だ。

藤沢宿(6)



ここ「**藤沢宿**」は、本陣1軒・脇本陣1軒・問屋場2軒・旅籠45軒と、そこそこの宿場だったらしい。道の先 右奥の、「**永勝寺**」には、39基の飯盛り女達の墓と、主人の墓が並んでいるらしい。



進むと左側に見えてきた、「**蒔田本陣跡**」には、道標（写真右）が建っているだけである。しばらく歩くと 左手に「**坂戸町問屋場跡**」の標柱があり、少し奥まった、藤沢公民館に、將軍専用の宿「**藤沢御殿**」があった。此の辺りが、宿場の中心部で、先には「**脇本陣跡**」を経て、「**高札場跡**」に至る。高札場跡には、**標柱**と**藤沢宿**の大きな案内板が設置され、当時の面影（写真右）は、ここでしか知りえない。やがて「**藤沢橋**」に到着する。時は 17:00 まだ空は明るい。



お着き藤沢橋

これからが大変だ・・・まだ陽は高いが、今宵の宿は、横浜のカプセルホテル（それしか、空室なし）JR 藤沢より電車で茅ヶ崎に・・・車で横浜へ・・・カーナビは、約1時間で到着との事、

途中 大渋滞に巻き込まれ、結局 2 時間以上走るが到着せず。

ホテルは、横浜伊勢崎町 初めての、カプセルホテル、カプセル (部屋) は、寝台車よりは良好、一応 風呂が付いているので一安心。さすが繁華街 近所には 多くの飲食店があり、選り取り見取り、でも人も多い。鮮魚専門店 (名前は忘れた) に、店内も人人人 やっと席を確保し、料理を楽しむ！ 途中 中山さん 気分が悪いと訴える、しばらくすれば治ったが、大事を取って、早々にホテルに帰り、お風呂に！ 今日の整理もせずに おやすみなさい 時は 21:00

(2日目) 4月3日 (金) 曇り一時パラツキ雨夕方本降り

藤沢宿 → 遊行寺 → 戸塚宿(5) → 境木立場跡 → 保土ヶ谷宿(4) → JR 茅ヶ崎

距離 17.90km (今日の歩行距離 34707 歩 * 65cm = 22.56km)

朝カラスの声と、ごみ収集車の音で目が覚めた。AM6:00 まだ早い、目がさえる！ 眠れたかと、問われれば、一応眠ったと答えるが、夜中に、カランコロンと下駄の音 変な感じ・・・何？いろいろ考えた でも判らない。結局起きる AM7:00。 素泊まり故に 朝食は吉野家へ！ トイレを済ませ、ホテルを出立 車庫は 24 時間 1500 円と格安だが、夕方 ここに戻らないので、藤沢までバック・・・藤沢橋のパーキングに車を預ける。

御発ち 藤沢橋

9:40 本来なら遊行寺橋からになるが、境川に架かる藤沢橋から、R30 の坂を登り始める。すぐ右手に、大きな木が見えてきた。「遊行寺」である。

遊行寺(清浄光寺)

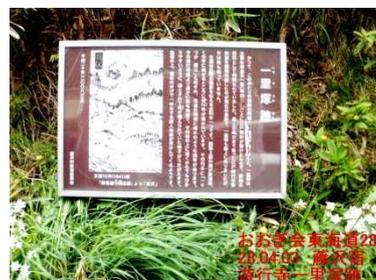
踊り念仏で知られ、時宗の総本山、一遍上人が正中 2 (1325) 年に開いた。宿場町「藤沢宿」は、この寺の門前町として、大いに栄えた。境内には、日本 3 大玄門 (黒門) のひとつとされている総



おおぎ会東海道28
28.04.03 藤沢宿
遊行寺大イチョウ

門や、本堂横の大銀杏 (写真左) が有名で、浄瑠璃で名高い小栗判官照手姫の墓もある。

急な登り道、これが「遊行寺坂」途中 小さな標柱は「遊行寺一里塚跡」(写真右) と示している。絵で見ると昔の街道は、山頂だったらしいが、改



おおぎ会東海道28
28.04.03 藤沢宿
遊行寺一里塚跡

修により、現在の地となったようだ。資料によると「江戸見付跡」も近所・・・見当たらない。やがて 頂上 平坦な道となる。松並木が現れ、緑ヶ丘で「東海道松並木跡」の碑を見ながら進み、並木茶屋 (鉄砲宿) を過ぎるころには、正面に R1 (藤沢バイパス) が見えてくる。ここから横浜市。やがて R1 と合流し「影取諏訪神社」には名木のくすのきが聳えていた。

ずっと道なりに歩く。松並木は中央分離帯に変わっていた。右手に 一風変わった建物、これは「戸塚崎陽軒」焼売の崎陽軒とは違うのか？ レストランらしい。先方原宿交差点で「かまくらみち」



おおぎ会東海道28
28.04.03 俣野
並木道

(環状 4 号線) と交差する。道路を拡張した時、松並木は、中央分離帯に、残ったのだろう (写真)。排ガスに耐え、生き残っているが、段々と、松の木が少なくなったように思う。この辺は 丘の上、少しアップ・ダウンが続く「原宿一里塚跡」から 又、登りとなり、晴れていれば、富士山も見えたらしい。広重の絵にも描かれている。丘の頂上部「吹上」は、名の通り、風が強い。小粒ながら 雨も降ってきた。少しの休憩、早々に歩き始める。

長い下り坂。足も速くなる。途中「仮名手本忠臣蔵」でおなじみのお軽・勘平「戸塚山中道行の場」の碑があり、少し下の「大坂」の碑によると、この坂は、結構 難所だったらしい。

長い下り坂の麓に「上方見付跡」や「戸塚宿」に入ってきた。道の向かいに「富塚八幡宮」(戸塚の名前の、元だったらしい。境内山頂に、円墳の富塚古墳がある)境内では、丁度 統一選挙の出陣式をやっていた。頑張りや！と声をかけて先に進む。隣は八坂神社と続く。

戸塚宿(5)



ここ「戸塚宿」は、江戸から40里 旅人は、早朝 江戸を立ち、最初の宿が、戸塚だった。大坂と権太坂の、難所に挟まれ、又 大山道や鎌倉街道の分岐点となり、小田原宿に次いで、大きな宿場として栄えた。3年遅れで慶長9(1604)年に、本陣2軒・脇本陣3軒・問屋場3軒・旅籠75軒で、設置された。(当時の保土ヶ谷宿では、設置に大



反対だった)、街中を進むと、道の左「澤辺本陣跡」があり、そこには、跡を示す柱と「明治天皇戸塚行在所跡」の碑が(写真右)建っている。近所に もう1つの本陣「蒔田本陣跡」にがあるのだが、見当たらず、代わりに料理屋が堂々と「きじま本陣」と看板を出していたが、歴史上、名のある本陣ではない。

戸塚アンダーパス



清源寺入り口先で、道は大きく右にカーブ、先方にJRの踏切(開かずの踏切)があるはず? しかし 道は人が通れない地下道に(写真左)なっている。あれ! R1が無い? どう歩く

の? 回り道になるかもしれないが? 取合えず戸塚大踏切デッキに回っていく。これで良いのか? 疑問だったが、「善了寺」を見つけ、間違っていないと確信する。(3月25日に、アンダーパスが供用を初め、踏切は、御用済みとなる。新聞によると、人々は、念願かない大歓迎)

よみうり寸評

「開かずの踏切」は全国約500か所とされる◆その一つ、横浜市のJ R戸塚駅に接する「戸塚大踏切」が地下道の開通に伴い、役目を終えた。それを記念して地元有志が『戸塚大踏切新聞』を発行したという。その街に暮らす友人から届けてもらった。中面が住民の証言集になっている、これが面白い◆八車の中で時の首相、吉田茂がイライラしているのが子供ながらに分かったV。大磯の自宅から通った吉田が、踏切のせいで国会

に遅れたという話も残る◆昭和天皇の思い出もある。八大人は最敬礼の中、子供は車のそばまで近寄り、笑顔で手を振っていたV。沼津の御用邸に向かう途中の出来事という◆若い頃の井上陽水さんの歌にある「大踏切の匂い」に恋人が「温かい飯の匂い」がする。ふきほれてもいいけど食事の時間はのぼしてV『あかずの踏切り』。恋人は家族にも替えられる。待たされることで、心に刻まれるの住民が3月25日、閉鎖される大踏切を見物にきたそうだ。

2015. 4. 7

矢場団地入口で合流し、吉田大橋で 柏尾川の桜(冒頭写真)を、眺めながら進むと、先方に「ダイエー」が見えてきた。脇に「江戸方見付跡」・「一里塚跡」の碑が並んで建っていたが、うまく写真に納まらなかった。(時間は12:45) 取合えず トイレ休憩と、食事を!

何食べよう? 結果 讃岐うどんを!(此処まで来て?) 満腹感で、少し眠気がするが、気を取り直し、先に進む。三叉路を右に折れ その先 左折し「不動坂」で結果 元の道に戻る。これが昔の街道だったのであろう。右側 R1に面し、県指定の天然記念樹「益田家のモチノキ」(写真)があり、木は、樹高18.0(19.0)m、目通り2.4(3.2)m、根回り3.1(4.9)mの雌2株があり、その距離は1.0mと離れていない。もうすぐ黄緑色の群生した小さな花が咲くらしい。



おおぎ会東海道28
27.04.03 戸塚
益田家のモチノキ

県営住宅の先、R1に憑かず離れず、芹谷川沿いを進み、駅入口の交差点から、脇道に入っていく。川沿いの道路は、歩道が設けられ、桜がきれい。やがて 道が狭くなり、歩道もなく、登り坂となる R216を横切る頃には、更に急な登り坂。此処が「品濃坂」で大きく右折すると、前面に R17(環状2号線) 横断歩道がない。長い階段を登り、陸橋を渡る。更に階段で登る・・・当時は 陸橋なんて? 都市計画により、大

大きく様変わりし、街道は寸断され、現在に至っている。しかし 高台故、見晴しは良いが 坂は結構きつい。大きな梨園（柴田農園）を横目で見ながら、狭い道を進み、下って・登った所の、切通しに「品濃一里塚」（写真）があった。道を挟んで、東西に 2 か所、神奈川県内 唯一残っている所らしい。



境木立場跡



又 下って、橋を渡ると、登り坂となる。途中「焼餅坂」の標柱があり、此处で、牡丹餅を売る立場があったようである。周辺は、大きな高層マンション群。やがて「焼餅坂」の碑があり、坂を登り切ると、境木地藏尊前の交差点、「武相国境之木」記された境木（写真）があり、やっと武蔵の国に入る。

ここは、権太坂・焼餅坂・品濃坂と難所が続く途中で、西に富士・東に江戸湾を望む眺望は、旅人に安らぎを与え、必ず足を止める所でした。近辺には大櫓・境木延命地藏尊があります。

権太坂

一休みして、軽やかに、歩きだす（下り坂）、境木中学校前では、左折を忘れ、そのまま行ってしまい、しばらく、住宅地の中を進んで行く。権太坂上の 3 差路、R1 を、左に下って行く。駅伝でおなじみ・・・花の 2 区・・・権太坂はこの辺りだろうか？ やがて R16(横浜横須賀道路)をくぐる。保土ヶ谷町 2 丁目交差点に「歴史の道東海道」の看板を見つけ、初めて間違いが気付いた（中学校前より狩場町まで、R1 に沿って歩いてしまった）が、修正は考えず、先に進む事とする。この辺は、「上方の松原」と呼ばれる松並木があり、昭和初期までは、比較的良好に、保たれていた様ですが、排気ガスに負け、現在は、権太坂付近に、わずかに残っているようです。やがて今井川と合流するほとりに、「一里塚」と「上方見付跡」の看板（写真）があり、ここから「宿内」（シュクウチ）と呼ばれ「保土ヶ谷宿」となる。



保土ヶ谷宿(4)



「保土ヶ谷宿」は、当初からの宿場であり、金沢八景や富岡等の、分岐点でもあり賑わっていた。一般に、東西見附間を宿場と呼んでいるが、ここでは、権太坂を含めた境木立場までが、宿場との説もある。本陣 1 軒（荻部本陣=明治 3 年輕部に変更）・脇本陣 3 軒（水屋・富士屋・大金子屋）・問屋場 1 軒・旅籠 67 軒があり、このほか、本陣並みの格式をもつ茶屋本陣も設けられていた。しばらく歩くと、右側に風情のある建物と、「本金子屋跡」（写真）の標柱があり、表示によれば、現存する唯一の建物である。更に進むと、3 差路右の「本陣跡」の標柱があり、本陣前交差点を左折し、一方通行の R201 に入る。道は商店街となり、途中交差点では、4 隅に「金沢横町道標」があり、更には「高札場跡」・「問屋場跡」・「助郷会所跡」等の歴史的遺産がある。さらに進み、帷子町 1 の交差点で、環状 1 号と出遭う。今日の歩きは、ここまで。



お着き **JR 保土ヶ谷**

午後4:40 まだ陽は高いが、明日の事を考え、此処で帰路に就く。JRで藤沢に、藤沢橋より、今日の旅籠、東横イン湘南茅ヶ崎に向かう。電車の移動が多かったので、早々に、チェックイン
 天気予報は良くない。食事の時には本降り。傘を持っての外出となる。神様仏様 明日は晴れてください。東京湾に面しているので、どうしても海鮮料理となる。結構、お店は混雑しており、何とか席に着く。ビールと魚それに少々のご飯で空腹は満たされた。部屋に戻り 入浴9:00 やつと落ち着く。昨夜の分も疲れが出てきた! そのまま就寝。

(3日目) 4月4日 (土) 曇り

JR保土ヶ谷→帷子橋→神奈川台関門跡→青木橋→神奈川宿→**新子安駅**

距離 8.30km (今日の歩行距離 17657歩*70cm=12.36km)

良く寝た。早々に目覚め、ホテルは、朝食のサービス付き、ただし7:00より、少し前にロビー横の食堂に並びに行く。和食であるが、種類すくない! サービス故に 文句は言えない。車はそのままにして、JRで保土ヶ谷へ!

御発ち **JR保土ヶ谷**

JR保土ヶ谷に着く。木本さん 親族に不幸があり、今日 お通夜との事、どうするか、昨夜より思い悩む・・・最終判断 横浜から新幹線で行っちゃった。8:45 帷子町1から環状1号(東海道)を歩き始める 天気予報では、良く持って半日との事、今日の歩きは、そんなに長くはない。

帷子橋 (カビラハシ)

やがて 右側広場に再現された「帷子橋」があり、説明の看板(写真)を見つける。すぐそばに相鉄「天王寺駅」 街道は 構内を突き抜け、先の「帷子橋」を渡り、右手に「橋樹神社」を見ながら先に、R16との交差点で「江戸方見付跡」の碑を見つける。R16 右に向かえば八王子。先方に大きな「松原商店街」が現れ、(ホコ天にし、大売り出し) 準備に大忙し。

やがて商店街も途切れ、「追分」辺りより住宅地となる。左手の山が大きく迫り出している。道との隙間に、マンションが建っており、崖との関係は? さすが、建築家集団 だまって見に行ったら、管理人らしき人に注意された。狭い、車の少ない道を進み「浅間神社」(境内に横穴がありそれが富士山麓まで続いているとの伝説あり) その前の幼稚園では入園式・・・盛装した子供・親と、それぞれが、嬉しそうにカメラ! 浅間下交差点で、R13(新横浜通)を横切るのに、大回りをする。

細い登り道を進んで行くと、閑静な住宅街となり、「南軽井沢」 長野県とは、関係なさそう。道は大きく右にカーブし、進む。K2(首都高三ッ沢線)をくぐる辺りより、登り道となる。やがて「上台橋」(ブルーラインの切通しを作る為、街道が分断し橋を設ける)、右手に行けば横浜! 直進する。

神奈川台関門跡

この辺が「上方見付跡」だ、「神奈川宿」に入った。

それらしきものが見当たらない。道は「台町」と呼ばれる、登り坂となり、昔は 右手が斜面で、海に落ち込み、神奈川湊を見おろす、風光明媚な処であつたらしい。左手に「神奈川台関門跡」(写真右)(14門の砲台が置かれた場所で、外国船来航に伴う警備の為、安政6(1859)年に着工され、翌年には完成)の碑があった。



これからは、なだらかな下り道「**台の坂**」の途中 右側に、しにせ料亭「**田中屋**」(写真前頁左)当初は茶屋「**さくらや**」で、創業は文久3(1863)年、**高杉晋作**や**ハリス**が利用したらしい。**勝海舟**の紹介で、「**おりょう**」が働き始めたのは、明治7年、才女だったらしく、結構人気があったらしい。

青木橋

少し進むと、**源頼朝** 創建と言われる「**大綱金毘羅神社**」の赤い鳥居が見えてきた。境内には大天狗伝説が残り、大きな天狗の像が、有る。その先に、「**一里塚跡**」今は何もない。道は平坦になった。「**東急フラワー緑道**」(昔此处に電車が走っていた線路跡)を横切り、**R83(環状1号)**と出遭い、左折する。

右手 **JR・相鉄**の陸橋「**青木橋**」(**R1**)を渡り、振り返ると「**本覚寺**」(開港時**アメリカ領事館**が置かれていた)と 丘の上に、大きな架台に支えられた「**三宝寺**」(写真右)がある。ここに葬られた、仏様は成仏されるのか? (これも建築家の沙我か?)



神奈川宿(3)

青木橋の袂より **宮前商店街**を行く。両側には、**甚行寺・普門寺・川崎大神**が立ち並ぶ、長さ400m 足らずの商店街。土曜日にしては、賑わいが少ないように思われる。突き当りの、広い道 **R15 (=第1京浜国道 線路の北側に K1=第2京浜国道)**に出る。



向こうに「**青木町本陣跡**」があるらしいが、ものすごい回り道なので、パス。

左折し 前方**滝の川**を北上する。自称 浜っ子の女性が、「**小野モータースの前に本陣跡**」と教えてくれたが、見つからず、バックし 警察署の前に「**神奈川町本陣跡と青木町本陣跡**」の標柱(写真)を見つけ、そのまま **R15**を進む。(街道から外れている) これらが 宿場の全てであるようだ。



R15と**K1**が一体の広い道 やがて**K1**は離れていく。庭のきれいな「**良泉寺**」(神奈川条約により、宿舎として使われそうになり、屋根をはがして、工事中とし拒否する写真左)を左に見ながら先へ。東海道に戻ったようだ? 京急**神奈川新町**駅付近の「**江戸方見附跡**」見つからず。

先を急ぐ、やがて**子安通** この辺りに「**一里塚跡**」があるはずと、懸命に 探すが見当たらず (後によく調べたら、もう少し先との事・・・笑) 帰宅までの事を考えると、この位か? あとは 最終回に託すのみ! 思いは遠くに来たものだ! 近くの駅に向かう。

お着き**新子安駅**

時間は11:30過ぎ、すぐに**JR**で茅ヶ崎に戻り、車に乗って、帰路に着く。車は、厚木道路に入り、新東名に乗る頃には、お腹が空いてきた、途中 空腹の為か、車中は疲れて静かになった。眠っている。先に急ごう。新静岡SAで、遅い昼食(15:00)を取り、若干の土産を仕入れ、又 西に向かう。渋滞にも遭わず、長島PAでトイレ休憩し、PM8:00には、松井山手に帰ってきた。路銀を清算し、家路につく。藤井君 安全運転ありがとう!

おわり

“お江戸日本橋へ”

最終章
 平成 27 年 4 月 2 日から 4 日
 茅ヶ崎一里塚より 藤沢宿・戸塚宿・保土ヶ谷宿から神奈川宿へ 新子安まで行けるかな！
 茅ヶ崎一里塚 → 6.2 km → 藤沢宿 (6) → 8.9 km → 戸塚宿 (5) → 9.0 km
 保土ヶ谷宿 (4) → 4.7 km → 神奈川宿 (3) → 3.6 km → 新子安駅

